



MSC



Misono Junior High School
STEAM Education
Career Inquiry-Based Learning Program



令和8年(2026年)3月1日 発行 大田区立御園中学校 〒144-0051 東京都大田区西蒲田8-5-1 電話 03(3732)9328

おおたの未来づくり

おおたの未来づくりは、大田区の特徴や中学校の専門性を生かした STEAM 教育等の教科等横断的な学習です。生徒が探究課題を設定し、授業パートナーと連携しながら、未来社会・地域社会・大田区のウェルビーイングの実現のために、新たな「もの」「取組」「仕組」等を創造することで課題解決を目指します。御園中学校では、異学年チームを編成し、キャリア探究学習プログラム(MSC)を展開しています。

ものづくり×イノベーション 科学(S)×技術(T)×人文社会、芸術・デザイン(A)

「ゼロからイチへ、つくろう理想の未来プロジェクト」

1

「ものづくり」から始める理想の地域社会づくり ～「身近なごみ問題」の解決に向けた提案～



SDGsの目標: 9
産業と技術革新の基盤を作ろう

「未来の地域社会をどのような姿にしたいか」。ゼロからイチを生み出す探究はこの問いから始まりました。私たちは「身近なごみの問題」をきっかけに、「ものづくり」によって人の行動や意識を変える仕組みを生み出すことが、理想の未来社会を実現していく力になると考えました。

例えば、私たちのチームでは、ごみに対する向き合い方を年代別に考えました。ある年代について話し合う中で「公園にごみを置いていく人が多い」という意見が出ました。ごみを捨てることに対して「面倒くさい」と感じ、大切さは分かっているが「自分には得がない」と考えているの

ではないかと考え、そこに課題があると捉えました。

そこで、ごみが落ちていたらどんな気持ちになるのか、どんな点で困るのかを話し合い、問題解決のために世界ではどのような取り組みが行われているのかを調べました。また、その取り組みを参考に、さらに良い機能が付けられないかを考えました。「あったらいいな」では課題は解決できないため、実際に作ることができそうで、企画できそうな取り組みを意識しました。

誰が困っているのかという顧客の視点を大切に、人物像を細かく設定しました。その結果、ごみ箱に「楽しさ」をモチーフとして取り入れ、「ごみを捨てる楽しさ」と「まちをきれいにする」という2つの良さを合わせもつ、思わずごみを捨てたくなる「一石二鳥のごみ箱」を考えました。ごみを捨てることを義務や我慢として捉えるのではなく、思わず捨てたくなる行動へと変えることで、人々の意識そのものを変えられるのではないかと考えました。この企画が実現すれば、まちに色や明るさが生まれ、ユニークさによって地域の魅力が高まり、大田区と蒲田を訪れる人が増



えると考えます。

ゼロからイチを生み出す探究を通して、私たちは、アイデアを具体的な形にしていくことの大切さや客観的な視点で顧客の意見に耳を傾け、改善を重ねていく重要性を学びました。「これらの学びを学校生活や社会との関わりの中でも生かしていきたい」と考えています。

(3年生徒)



地域創生×コンサルティング 科学(S)×工学(E)×人文社会、芸術・デザイン(A)

「蒲田Happinessプロジェクト」

2

「地域清掃」から「地域創生」へ ～もっと美しく、さらに安全・安心で愛される蒲田のまちに～



SDGsの目標: 11
住み続けられるまちづくりを

「蒲田のまちをもっときれいにしたい」「さらに安全で安心なまちにしたい」「地域に暮らす人や蒲田を訪れる人をハピネスにしたい」。そんな思いから始まったのが、私たちの「蒲田Happinessプロジェクト」です。

私たちが暮らす蒲田は、人と人との距離が近く、温かさを感じられるまちです。登下校時の挨拶や困っている人に自然と手を差し伸べる姿から、地域の良さを実感しています。私たちは、こうした蒲田の価値を守りながら、今よりも

「もっと美しく、さらに安全・安心で暮らしやすい蒲田のまち」を実現したいと考えました。

このプロジェクトの原点は、生徒会で実施した「御園中Happinessウィーク」です。全校生徒が思いやりの気持ちを伝え合い、学校全体がハピネスな雰囲気になったことから、自分たちの行動が周囲に影響を与えるという手応えを感じました。そこで、次はそのハピネスを地域にも広げたいと考え、身近な蒲田のまちに視線を向けました。話し合いの中では「道にごみが落ちている」「地域との交流が少ない」といった課題があり、地域清掃と絵、動画による活動の発信に取り組むことにしました。

清掃活動は、約30名の生徒が3つのチームに分かれ、駅前、商店街、公園周辺で実施しました。回収したごみは約2kgで、それらを分別し、「どこで、何が、なぜ捨てられているのか」を記録・分析しました。種類別に見ると、飲料容器が約50%、包装ごみが約30%、たばこの吸い殻が約20%でした。分析を進めると、場所ごとにごみの種類や量に違いが分かりました。駅周辺ではたばこの吸い殻が多く、商店街では使い捨ての包装や買い物に伴うごみ、公園では飲料容器が目立ちます。こうした結果から、場所



によってごみの種類に特徴があることが分かり、ごみ問題は個人の意識だけでなく、まちのつくりや人の動きとも関係していると考えようになりました。

私たちは、注意や禁止による呼びかけではなく、人の行動を自然に引き出すハピネスを生み出すことこそが大切だと考えました。そこで、自分たちの思いをより多くの人に、より広く届けるために「御園中を地域に愛される学校に」をテーマにした絵を制作・掲示することにしました。この絵を通して、まちに関わる一人一人のハピネスを広げ、「未来につながる行動を生み出していきたい」と考えています。

(3年生徒)



「アントレプレナーシッププロジェクト」

3

御園中学校×キャラメルポップコーンカンパニー
大田区の魅力をポップコーンで伝えよう～舞台は「羽田エアポートガーデン」～



SDGsの目標：8
働きがいも経済成長も

私たちは、アントレプレナーシッププロジェクトを通して、大田区の魅力を伝えるポップコーンを企画・販売しました。ゼロの状態から課題を見つけ、アイデアを具体化する中で、チームでの挑戦や意思決定が人の行動や意識に影響を与えることを実感し、未来社会で必要な力を学べると考えました。

このプロジェクトを選んだ理由は、「考えたアイデアを形にし、企業すること」に非常に興味をもったからです。アイデアを商品にして実際に企画・販売まで挑戦できる点に魅力を感じ、「行動を起こすことで変化が生まれる」ことに心を動かされました。

アントレプレナーシップ親善大使の先生にご紹介した



いただいたワークシート「ビジネスモデルキャンパス」を活用し、株式会社幕明の先生の支援を受けながら、商品開発部門、PR 部門、販売部門の3つの部門に分かれて役割を設定しました。会社(事業)を大きく発展させるために、各部門でやることを決め、効率よく仕事を進めました。

商品開発部門では、「オリジナルのポップコーンを発売し、国内外からの旅行者に大田区の魅力を伝える」という目標を立て、味を決めるという大きな課題に取り組みました。意見を出し合い5つにまとめ、会社(事業)全体として発表し、多くの好評を得ることができました。

各部の代表者とリーダーを中心に議論を進め、時間を区切って整理したり、追加でアイデアを出したりしながら、全体の目標に沿った企画案を構築しました。ポップコーンは中身が見える透明カップにし、シールやイラストで楽しさを演出しました。味は大田区らしさを意識した「はちみつ味(ゆきみつ)」「海苔塩味」「甘海苔味」を選び、チラシやポスターも作成しました。そして、羽田エアポートガーデンの30mディスプレイで広告動画を流し



ていただきました。

会社(事業)運営では、トップとして意思決定や進行を担い、全員で一つの成果をつくり上げた達成感を実感しました。「伝え方次第で人の意識や行動を変えることができる」面白さを学びました。この経験を必ず生かしていきたいと考えています。

(3年生徒)

「国際交流プロジェクト」

4

羽田空港旅客ターミナルにて外国の方々に英語でインタビュー
～Why Did You Come to Japan? Discover what makes Japan and Ota City so special!～



SDGsの目標：10
人や国の不平等をなくそう

私は、国際理解や国際交流に関心があり、将来の留学も視野に入れて外国のことを知りたいと思い、このプロジェクトに参加しました。英語の学習が好きで、言語を使って世界とつながる体験をしたいという気持ちもありました。外国の方と交流することで視野が広がり、自分たちの価値観や考え方もより豊かになると考えました。

私たちは、東京国際空港ターミナルの皆様のご協力の



もと特別な許可をいただき、羽田空港旅客ターミナルで外国人観光客や職員の方々への英語でのインタビュー取材を行いました。文化の違いや日本での体験を知る中で、異文化理解の重要性を学び、未来社会で求められる共感力や行動力を育むことができると考えました。

インタビューを通じてリアルな声を収集するとともに、感謝の意味を込めたコースターやしおりなどのお土産を作り、交流を意識しました。また、各国の文化的な慣習やマナーをICTで調べ、日本の中で外国人が安心して過ごせる環境について考えました。国ごとの文化の違いや情報量の多さが課題でしたが、協力して整理・分類することで解決しました。

質問項目は「日本で困ったこと」「好きなところ」「驚いたこと」「不便なこと」「日本人の印象」「出身国との違い」などに整理し、外国人が直面する困難や日本の魅力を理解しました。その結果、日本を紹介する際に役立つ情報も発見することができました。

日本で困ったことや印象に残ったことを聞く中で、日



本に来た外国の方々は、日本のことをとても「好き」でいてくれているということが分かりました。また、日本は「綺麗で親切な国だ」と言われて、私たちにとっては当たり前のことだったことが、世界から見れば「すごいこと」なんだと思いました。外国人の方々が好きでいてくれる「日本の良さ」を失くしてしまわないよう、これからも大切にしていきたいと思いました。また、文化の違いや習慣を尊重しながら共感する力の大切さを学びました。「世界とのつながりを意識して行動し、国際理解を広げていきたい」と考えています。

(3年生徒)

指導体制

科学 (Science) 先生7名

技術 (Technology) 先生6名

工学 (Engineering) 先生3名

人文社会・芸術・デザイン (Liberal Arts、Arts) 先生20名

数学 (Mathematics) 先生3名

学校職員及びコミュニティ・スクールによる支援体制を構築しています。

5

食×ウェルネス 技術 (T)

「人も地球も健康になる食を考える、未来を創り出す食プロジェクト」

御園中学校×東邦大学

共同開発～食べやすく、体にやさしい、バランスのとれた給食～



SDGsの目標：2
飢餓をゼロに

私たちは、身近な食の問題をきっかけに、健康的で食べやすい給食を考える探究に取り組みました。食塩や食物繊維、野菜や果物のバランスを意識しながら献立を具体化する中で、食の工夫を通して人の意識や行動を変えることが、理想の未来社会の食を実現していく力になると考えました。



毎日の食事を振り返ると、健康を意識して食事を考えている人は少ないように感じました。そこで私たちは、「食に対する関心を高め、よりよい食生活を実現するにはどうすればよいか」を考えました。まず現状を知るために、東邦大学医学部の先生から「日本人は食塩を摂りすぎ、食物繊維が不足している」こと、特に中高生では将来の生活習慣病につながる可能性があることを教えていただきました。このことから、「健康的な食事の重要性」をどう伝えるかが課題だと考えました。

献立づくりでは、1グループ1品ずつ考えながら、全体の味のバランスや彩り、栄養価も考慮しました。定期的な意見交換やテーマの入れ替えを行うことで、多角的な視点を生かした献立づくりができました。具体的には、「玄米ご飯や全粒粉パンを使ったフルーツサンド」や、「大根やきゅうり、なすなどの野菜」を取り入れ、食物繊維を多く含む献立を考え、食塩を抑えつつビタミンや果物も意識しました。多くの人が食べやすく、健康にも配慮した給食を作ることは簡単ではありませんでしたが、チーム全



員で協力し、一つの献立にまとめることができました。

健康的な食事をどのように発信するかを話し合う中で、協調性や積極性、他者の意見を聞く力、議論をまとめる力が身につきました。食の探究を通して、理想の未来社会の食生活は、一人一人が考え、行動することで少しずつ変えていけるものと学びました。「食べやすく、体にやさしい、バランスのとれた給食メニュー」が様々なところで提供されることを嬉しく思います。今後の生活や学習にも生かしていきたいと考えています。

(3年生徒)

6

教育×クリエイション 科学 (S) ×技術 (T) ×工学 (E) ×人文社会、芸術・デザイン (A) ×数学 (M)

「未来の学校を創造するプロジェクト」

みらい学園中等部×類設計室

一人一人がみらいを創る～未来の学校を創造するワークショップ～



SDGsの目標：4
質の高い教育をみんなに

私たちの「未来の学校を創造するプロジェクト」は、生徒と大人が新しい学びの場を共に創り出すことを目的としたみらい学園独自の「キャリア教育」の取組です。建築士やデザイナー、コピーライターの方、大田区の職員の方などを外部講師としてお招きし、ワークショップを継続的に行っています。

ワークショップには、先生たちだけでなく、類設計室や大田区の職員、教育委員会の担当者の方々も参加しています。大人と子どもが立場をこえて意見を交わすことで、お互いの考えを理解し合い、「みんなで安心して学べる学校をつくる」という共通の意識が生まれています。

ワークショップでは、さまざまな立場の方々と対話を

重ねながら、自分たちの考えを言葉や形にしていきました。その中で、私たちの意見が真剣に受け止められ、実際に、新しい学校づくりにつながっていく経験をしました。特に印象に残っているのは、「条件にとらわれず自由に発想することで、考えが広がり、深まっていく楽しさ」です。一人では思いつかなかったアイデアも、仲間と話し合うことで、新しい意味や価値をもつものへと変わっていきます。

私たちは、このプロジェクトを通して「自分たちの学校を、自分たちの手でよりよいものにしていこう」とする意識が、少しずつ育っていると感じています。これからも、「一人一人がみらいを創る」という思いを大切にしながら



ら、「未来の学校を創造するプロジェクト」を続けていきたいと考えています。

(3年生徒)

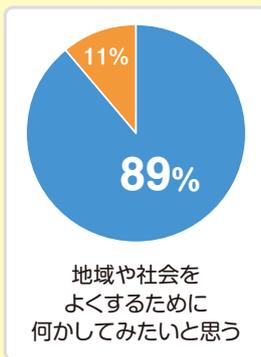
アンケートの結果（おおた教育ビジョン個別目標1 予測困難な未来社会を創造的に生きる力の育成）

「持続可能な社会の創り手の育成」及び「地域社会に根差したウェルビーイングの向上」

授業後の生徒アンケートでは「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」約89%、「将来の夢や目標を持っている」約74%、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んだ」約85%の肯定的（青色）な回答が見られました。全ての項目で全国と東京都の平均値を上回っています。

また、自由記述には、「様々な問題や悩みを知り、それらと向き合うことの大切さが分かった」「これからは僕たちが大田区の未来を支えていく番だという実感をもつことができた」「自分たちの力で成し遂げるために、どう考え、どう取り組むかを考える練習になり、楽しい学びだった」といった感想があります。

生徒たちは探究の難しさに向き合いながらも、その過程を価値ある「自分ごと」の学びとして受け止め、主体性や当事者意識をもって社会と関わろうとしています。



【研究実践経過】

6月6日	キャリア探究プログラム開始 オリエンテーション「おおたの未来づくり(キャリア探究)」 講師 研究推進部主任 先生	12月11日	講師 株式会社RePlayce アカウントマネージャー 先生 株式会社カタルチア 代表 先生 アナウンサー 先生 講師 株式会社幕明 代表取締役 先生 株式会社Crisp Point 社長 先生 大田区教育委員会指導課 指導主事 先生
6月16日	講義・演習「人類の活力の源とは?1」 講師 株式会社類設計室 教育事業部 先生 営業統括部設備設計部課長 一級建築士 先生 企画部 先生	12月16日	講師 株式会社RePlayce アカウントマネージャー 先生 講師 株式会社カタルチア 代表 先生 アナウンサー 先生 講師 株式会社幕明 代表取締役 先生 株式会社Crisp Point 社長 先生 住友不動産商業マネジメント株式会社企画営業部広報グループ サブマネージャー 先生 講師 東邦大学医学部社会医学講座衛生学分野 助教 先生
6月25日	講義・演習「人類の活力の源とは?2」 講師 株式会社類設計室 教育事業部 先生 営業統括部設備設計部課長 一級建築士 先生 企画部 先生		
7月3日	講義・演習「未来を創るための”問い”とは?」 講師 デロイトトーマツコンサルティング合同会社ヒューマンキャピタル マネージャー 先生 シニアマネージャー 先生 アナリスト 先生	12月22日	講師 大田区資源環境部環境政策課環境政策 主任 指田進先生 主任 先生
7月15日	ワークショップ「未来を創るための”問い”とは?」 講師 デロイトトーマツコンサルティング合同会社ヒューマンキャピタル マネージャー 先生 シニアマネージャー 先生 アナリスト 先生 講師 東邦大学医学部社会医学講座予防医療学分野 教授 先生	1月20日	講師 株式会社カタルチア 代表 先生 アナウンサー 先生 アントレプレナーシップ×デザイン 株式会社幕明 代表取締役 先生
8月28日	校内研修「おおたの未来づくり ～探究学習における教師の役割とは?～」 講師 日本女子大学人間社会学部教育学科 特任教授 先生	2月5日	講師 株式会社RePlayce アカウントマネージャー 先生 講師 株式会社幕明 代表取締役 先生 講師 株式会社カタルチア アナウンサー 先生 講師 キヤノン株式会社サステナビリティ推進本部 先生
9月11日	探究プロジェクト開始		
9月19日	講師 株式会社RePlayce アカウントマネージャー 先生 講師 株式会社幕明 代表取締役 先生 講師 東邦大学医学部社会医学講座予防医療学分野 教授 先生 衛生学分野 助教 先生	2月6日	羽田エアポートガーデン 講師 株式会社幕明 代表取締役 先生 株式会社Crisp Point 社長 先生 先生 住友不動産商業マネジメント株式会社企画営業部広報グループ 関係職員の皆様
9月22日	講師 文部科学省アントレプレナーシップ推進大使 早稲田大学研究戦略センター 教授 神奈川県立保健福祉大学大学院ヘルスイノベーション研究科 教授・副研究科長 先生 大田区教育委員会指導課 指導主事 先生 STEAM教育推進専門員 先生 5名	2月7日	羽田エアポートガーデン 講師 株式会社幕明 代表取締役 先生 株式会社Crisp Point 社長 先生 先生
10月1日	講師 株式会社RePlayce アカウントマネージャー 先生 講師 株式会社幕明 代表取締役 先生	2月8日	羽田エアポートガーデン 講師 株式会社幕明 代表取締役 先生 株式会社Crisp Point 社長 先生 先生
10月21日	講師 株式会社RePlayce アカウントマネージャー 先生 講師 株式会社幕明 代表取締役 先生	2月18日	校内研修 授業者 技術分野 先生 講師 日本女子大学人間社会学部教育学科 特任教授 先生
11月14日	講師 株式会社RePlayce アカウントマネージャー 先生 講師 株式会社カタルチア アナウンサー 先生	2月20日	講師 株式会社RePlayce アカウントマネージャー 先生 講師 株式会社カタルチア 代表 先生 アナウンサー 先生 講師 株式会社幕明 代表取締役 先生 株式会社Crisp Point 社長 先生
11月26日	講師 株式会社RePlayce アカウントマネージャー 先生 蒲田西特別出張所 所長 先生 副所長 先生 先生 講師 森田写真 先生 講師 株式会社幕明 代表取締役 先生 講師 株式会社Crisp Point 社長 先生 講師 東京国際空港ターミナル株式会社 企画部 先生 関係職員の皆様	3月2日	キャリア探究講演会 講師 株式会社FASHION X 代表取締役 先生 探究プロジェクト終了
		3月6日	キャリア探究プログラム発表会

編集後記

MSCを通して、生徒一人一人が身近な課題を「自分ごと」として捉え、仲間や大人と意見を交わしながら主体的に学ぶ姿が多く見られました。試行錯誤を重ねる中で培われた思考力や協働性、表現力は、これからの社会を生きていく上で大切な力であると感じています。今後は、学年や教科を越えた学びのつながりをさらに広げ、より深い探究へと発展させていきたいと考えています。MSCの実施にあたり、授業パートナーとしてご支援・ご協力をいただいた外部講師や関係機関の皆様、保護者、地域の皆様、そして生徒の学びを支えていただいた教職員に心より感謝申し上げます。

(研究推進部主任 先生)



御園中を地域に愛される学校に(3年生徒)